

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 6 部門第 1 区分
 【発行日】 平成 19 年 12 月 20 日 (2007.12.20)

【公開番号】 特開 2006-138642 (P2006-138642A)
 【公開日】 平成 18 年 6 月 1 日 (2006.6.1)
 【年通号数】 公開・登録公報 2006-021
 【出願番号】 特願 2004-326013 (P2004-326013)
 【国際特許分類】

G 2 1 K 4/00 (2006.01)
C 0 9 K 11/00 (2006.01)
C 0 9 K 11/08 (2006.01)
C 0 9 K 11/61 (2006.01)
C 0 9 K 11/62 (2006.01)
C 0 9 K 11/64 (2006.01)
C 0 9 K 11/85 (2006.01)
G 0 1 T 1/00 (2006.01)
G 0 3 B 42/02 (2006.01)

【F I】

G 2 1 K 4/00 M
 C 0 9 K 11/00 B
 C 0 9 K 11/08 A
 C 0 9 K 11/61 C P F
 C 0 9 K 11/62
 C 0 9 K 11/64
 C 0 9 K 11/85
 G 0 1 T 1/00 B
 G 0 3 B 42/02 B

【手続補正書】
 【提出日】 平成 19 年 11 月 1 日 (2007.11.1)

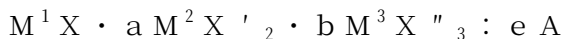
【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 特許請求の範囲
 【補正対象項目名】 全文
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ポリマーで被覆されたアルミニウム基板上に輝尽性蛍光体層を有する放射線画像変換パネルにおいて、少なくとも 1 層の輝尽性蛍光体層が気相堆積法（気相法）により 50 μm ～ 20 mm の膜厚に形成されたことを特徴とする放射線画像変換パネル。

【請求項 2】

輝尽性蛍光体が下記一般式（1）で表される化合物であることを特徴とする請求項 1 に記載の放射線画像変換パネル。

一般式（1）



〔式中、 M^1 は Li、Na、K、Rb および Cs から選ばれる少なくとも 1 種のアルカリ金属原子であり、 M^2 は M^1 以外の Li、Na、K、Rb および Cs から選ばれる少なくとも一種の金属原子であり、 M^3 は Sc、Y、La、Ce、Pr、Nd、Pm、Sm、Eu、Gd、Tb、Dy、Ho、Er、Tm、Yb、Lu、Al、Ga および In から選ばれ

る少なくとも1種の三価金属原子であり、X、X'およびX''は各々F原子、Cl原子、Br原子およびI原子から選ばれる少なくとも1種のハロゲン原子であり、Aは、Eu、Tb、In、Ce、Tm、Dy、Pr、Ho、Nd、Yb、Er、Gd、Lu、Sm、Y、Tl、Na、Ag、Cu及びMgから選ばれる少なくとも1種の金属原子であり、また、a、b、eはそれぞれ $0 \leq a < 0.5$ 、 $0 \leq b < 0.5$ 、 $0 < e \leq 0.2$ の範囲の数値を表す。]

【請求項3】

前記ポリマーのSP値が8.0～12.0であることを特徴とする請求項1又は2に記載の放射線画像変換パネル。

【請求項4】

前記アルミニウム基板を被覆するポリマーのガラス転位点が30～100℃であることを特徴とする請求項1～3の何れか1項に記載の放射線画像変換パネル。

【請求項5】

前記ポリマーがポリエステル樹脂であることを特徴とする請求項1～4の何れか1項に記載の放射線画像変換パネル。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(請求項1)

ポリマーで被覆されたアルミニウム基板上に輝尽性蛍光体層を有する放射線画像変換パネルにおいて、少なくとも1層の輝尽性蛍光体層が気相堆積法（気相法）により50 μm～20 mmの膜厚に形成されたことを特徴とする放射線画像変換パネル。